

米国内科学会(ACP)日本支部 年次総会 2013

米国内科学会(American College of Physicians: ACP)は、1915年創立の米国内科専門医会(ACP)と、1956年設立の米国内科学会(ASIM)が1998年に合併して誕生しました。現在、世界80カ国に13万人の会員を有する国際的な内科学会です。学会員の内科診療技術を最高水準に維持し、患者に高い質の医療を提供することや、医療の質を高めるための研究を推進することなどを使命としています。“Annals of Internal Medicine”を学会公式雑誌とし、年次学術総会、生涯教育(MKSAP)、医療政策提言などさまざまな活動を行っています。ACP日本支部は、2003年にアメリカ大陸以外では初めて設立が許された支部で、現在会員数が1,000名を超え、医学生や研修医など若手会員が20%を占めるまでになっています。日本内科学会の総合内科専門医を有する内科医はACP正会員に、ACP正会員のうち要件を満たす者はFellow(FACP)の称号を申請できます。以来、毎年総会・講演会などの活動を行ってきました。

2013年も年次総会を開催します。Generalismを基本テーマとし、臨床能力向上のための教育セッションを多数提供する予定です。ACPの会員であるなしにかかわらず、どなたでもご参加可能です。また、本年より、ワークショップなどの公募(ACP会員のみ)や一般演題(ポスター)セッションを実施します。

日 時：2013年5月25日(土)、26日(日)

会 場：京都大学百周年時計台記念館

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/clocktower/>
プログラム

基調講演：「患者の行動変容に内科医は何ができるか？」Mitchel Feldman(Univ. California San Francisco, J General Internal Medicine 編集長)、「北米のホスピタリストの現状と展望」石山貴章(Saint Mary Hospital,

St. Louis)

遠藤和郎先生追悼企画：本郷偉元(武蔵野赤十字病院)、知花なおみ(沖縄県立中部病院)

シンポジウム：「高齢者医療のジレンマ：胃瘻、透析、化学療法」ACP2013実行委員会

教育セッション(Grand Round, Workshop, Interest Group)：「総合内科ケーススタディ」清田雅智(飯塚病院)、「感染症ケーススタディ」細川直登(亀田メディカルセンター)、「リウマチ診療のピットフォール」高杉 清(道後温泉病院)、岸本暢将(聖路加国際病院)、萩野 昇(帝京大学ちば総合医療センター)、「内科救急の御法度」林 寛之(福井大学)、「水・電解質を極める」V. Hood(Univ. of Vermont, ACP 会長)、柴垣有吾(聖マリアンナ医科大学)、「鑑別診断を絞り込む」野口善令(名古屋第二赤十字病院)、「論文を国際誌に受理されるには」M. Feldman(UCSF)、「バイタルサインから診断する」徳田安春(筑波大学)、「Snap Diagnosis」須藤 博(大船中央病院)、「症例報告から一歩前へ」栗田宜明・福原俊一(京都大学)、「Meet the professor セッション」、ほか

一般演題(ポスター、英語)：2013年1月末～3月末、優秀演題口頭発表、表彰

学生・研修医向けプレ・カンファレンス・セミナー：「リサーチ・クエスションのを見つけ方、抄録の作り方と発表法」2013年2月9日(横浜・みなとみらい)

事前登録制：参加費 6,000 円(ACP 会員, Associate 会員), 10,000 円(ACP 非会員), 医学生会員無料(非会員は 1,000 円), 研修医 3,000 円

事前登録期間：2013年4月30日まで。Web 登録のみ。

申し込み：http://www.acp2013.org

問い合わせ先：ACPJC2013 年総会・講演会事務局
E-mail: acpjc2013@cscenter.co.jp